

令和7年度 自己評価結果公表シート

修道こども園

1 園の教育目標

すべての子どもたちのために、その未来のために「いつでも どこでも 誰でもが」質の高い乳幼児の教育・保育と子育て支援を総合的にできるよう次の思いを大切にしている。

- ＊心身ともに健康で明るく伸び伸びとした元気いっぱいの子どもたちを育てたい。
- ＊自主性と個性を大切に、それぞれの子どもたちの発達に合わせた教育・保育を行い心身ともに豊かな子どもたちを育てたい。
- ＊友だちと仲よく遊び、自然や命の大切さを教えたい。
- ＊当たり前のことができる子どもたちに育てたい。

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画を基にした総合的評価

- 子どもたちとともに保育教諭が「やってみよう」という挑戦する気概を大切にして、自己目標設定について評価・反省し、次の実践につなげようと意気込みがみられた。
- クラスを複数で担任することにより、相談し連携しながらよりよい教育・保育を工夫して進めることができた。
- 学年間のつながりを大切にして、教育・保育活動を円滑に進めるために役割分担をより明確にすることが必要である。
- コドモンを有効活用し、保護者への情報発信をさらに効率的に行うようにすることが必要である。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
教育・保育要領の内容を踏まえ、園の教育理念・教育方針に従い教育・保育活動を進めている。	一人一人の子どもたちの様子を丁寧に観察し、適切な教育・保育ができるよう毎日記録・自己評価をしており、管理職が読んで助言している。自己評価を踏まえ、保育の質の向上につなげていくよう、保育週案の記録・評価を継続していきたい。
教育・保育要領の内容を踏まえ、子どもの実態をもとにしてカリキュラムを作成している。	どの子にも寄り添い、「やってみよう」「できた」が実現できるカリキュラムを作成し実践している。さらに研修を深め、園の独自性を発揮しながら未来につながる力を子どもたちに身に付けさせたい。
子どもの実態を的確につかみ、主体的な学びが生まれるように環境設定している。	子どもたちの興味・関心や身に付けさせたい力を把握し、園の環境の中を整え、自主的に遊びが選べるよう工夫することができた。さらに園全体で新たな教育・保育活動に関する情報について学び、スキルアップを進める必要がある。

学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	各クラスの活動の様子、個々の子どもたちの様子を指導記録にまとめ把握することができた。
子どものよさを認めて評価しようとしている。	子どもの気持ちに寄り添い、適切な言葉がけにより、その子のがんばりを認め、指導が必要なときは気持ちを受け止めながら丁寧に指導することができた。保護者への報告も随時行うことができた。
職員間の協力体制が整えられ、積極的に話し合い、同じ方向性をもって、保育をしている。	理事長・園長の考えを踏まえて副園長・主幹教諭が現場の意見をまとめ、職員が同じ方向性をもって保育できるよう努めている。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	子どもたちが互いを思いやり、楽しく安全に園生活が送れるよう、ルールやマナーについての学習を根気強く続けることができている。
各研修会や研究会に積極的に参加して職員に資料提供をする。	新しい教育・保育情報について学び合うことを大切にして、研修に参加しやすいクラスのフォロー体制を整えることができている。
園だよりや各学年の掲示資料を通して、こども園の情報を発信していく。	園だよりや通知などを資料箱で共有したり、行事予定を提示したりするなど、コドモンの活用項目が増えてきている。保護者の要望も反映しながら、さらに活用範囲を広げていく。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	年度末の保護者アンケートでは「安心できる」「先生たちが信頼できる」園という評価が高かった。保護者が安心して預けられる園づくりを進め、職員の教育・保育者としての自覚を徹底していきたい。子どもたちが生き生きと遊びの中の学びに打ち込める環境づくり、毎日園に行きたいと元気に登園する笑顔が見られるよう、全職員でさらに努めていくことが目標である。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
適切な教育・保育環境の設定と安全・安心できる環境整備	建物の老朽化が進み園内に修繕の必要な個所がある。園庭の遊具についても修繕が必要な個所が少しずつ増えてきている。子どもたちがケガをしないよう定期的に点検を行い、安全対策をとるように徹底する。

自己目標と設定	職員一人一人がどのようなクラス経営を目指すのか、分掌でどのような活動を取り入れていこうとするのかについて、より具体的にできる限り数値目標を掲げて実践を積み上げていく必要がある。また、実践後の評価を的確に行い、次年度につなげる。
指導計画の編成	職員が教育・保育計画について意見を交わしながら、活動内容を研究し実践できる環境を整えて、新たな視点をもって指導計画を見直していきたい。

6 学校関係者評価委員会の意見

- 保護者と保育者が親しくつながり、信頼し合っているということが分かる。降園の際の保護者と保育者のやりとりを見ていると雰囲気の高さを感じる。対面と会話の接触回数が大切である。
- 保護者アンケートの結果もすばらしい。数値を見ても記述内容を見ても安心して子どもを預けていることが分かる。
- 「園では、体験活動や外部講師などの専門家による学習を積極的に取り入れていると思うか。」という問いに対して、「よくあてはまる」と回答した平均値が低いとのことだが、
 ＊あえて外部講師という文言を質問に入れなくてもよいのではないかと。体験活動は十分取り入れていると思うので、そのような尋ね方にしてはどうか。
 ＊数値にこだわる必要はないと思う。他園でも外部講師による学習が増えていると聞くと、外部講師に来てもらうことでどれくらいの教育・保育効果があるのか、保護者の満足度があるのか尋ねてみたいところである。
 ＊あえて外部講師を招かなくても在籍する保育者の得意分野を生かして、園の中で工夫して教育・保育を進めることで十分だと考える。
- その日にどんなトラブルがあったとしても子どもたちを笑顔にして帰す保育が保護者の信頼関係につながるはずである。その考え方を大切にして、これからも保護者との信頼関係を厚くして修道こども園の教育・保育を進めてほしい。